

子供を育てるなら群馬県 「いのちを学ぼう」動物ふれあい教室
群馬県獣医師会の取り組みについて

群馬県獣医師会 学校動物愛護指導委員会

「子供を育てるなら群馬県」の県政スローガンのもと、21世紀の将来を担う子供たちが動物とふれあうことにより生命を学べるよう、平成10年度より県の事業として希望する小学校に獣医師を派遣する「動物ふれあい事業」が始められました。平成11年度からは幼稚園・保育園・保育所も対象となりました。本事業は学校飼育動物の『動物ふれあい教室』を中心に診療・飼育相談等を行っています。この事業を委託されている群馬県獣医師会の取り組みについて、小学校におけるウサギを用いた動物ふれあい教室を中心に紹介させていただきます。

1 各学年のテーマとふれあい教室の概要

低学年（1・2年生）のテーマは遊び：生活科の授業の一環として行われることが多く動物に実際に触れることを通して、その温かさ、やわらかさ、いのちを実体験することを目的としています。

授業の展開は、1): 担当教師による授業内容の説明から始まり獣医師がウサギの特徴・心臓の位置・抱き方・注意事項等を説明します（約15分）。2): 児童10名前後に獣医師一人の割合で班分けをして聴診器を用いてまず児童の心音を聴取し続いてウサギも行います。3): 獣医師の指導のもとウサギを抱かせたり体に触れさせます（児童は座って行う）。怖がる子にはバスタオルでウサギを包み体の一部でもよいから触れさせます（決して無理はさせない）。時間的な余裕があれば歯・指の数等体の特徴も観察します（約20分）。4): 児童の感想を聞いたり質問に答えます（約5分）。5): 担当教師にまとめをしてもらい、手をよく洗浄して終わります。

中学年（3・4年生）のテーマは観察：理科の授業に獣医師が参加することが多く、五感を駆使して観察し体の構造を人間と比較します（歯の構造・体温調節・骨格・筋肉等）。さらに歩様に注目し体を動かす仕組み（実際に動物のまねをして歩かせてみる）・食べ物の消化・呼吸循環器等に展開し人間との共通点・相違点を考えます。低学年同様心音聴取も行います。

高学年（5・6年生）のテーマは責任：総合的な動物の観察や特に飼育実践を通

して社会性を学ぶことを目的としています。具体的には低学年同様、聴診器を用いて心音の比較・動物とのふれあいも行い、またグループ学習あるいはミニシンポジウムなどの形式で動物について調べたり考えたりした事を発表してもらいます。担当教師・獣医師は資料の提供やアドバイスしたり質問に答えます。課題のポイントとしては、動物の存在意義（家畜・愛玩動物・野生動物等）や地球環境の中での人間と動物の関わりまた動物の特徴・習性を把握し飼育しなければならない事（飼育動物は人間が世話をしなければ生きていけない）などです。

飼育委員会活動のテーマは高学年同様責任：飼育委員に対しては、自分たちが学校飼育動物の生命を預かる大切な仕事を任されているのだということを目覚めさせ、日常の飼育・健康管理について学び、動物を飼うことの責任について考える事を目的としています。具体的には、まず飼育管理に必要な個体識別のために名前をつけたり飼育日誌の必要性を説明し、低学年同様聴診器により心音を比較します。その後、動物を抱くのではなく健康チェックしやすいような保定の仕方を覚えてもらい、天然孔（耳・目・鼻・口・肛門等）の汚れの有無また被毛皮膚の状態・栄養状態を観察します。治療の実践として点眼や投薬、爪きり、体重測定などを行います。繁殖コントロールに必要な雌雄鑑別も重要な事項です。最後に質問を受け担当教師にまとめをしてもらいます。

以上のふれあい教室は学校からの依頼・希望により獣医師会が実施しています。また、飼育動物の病気・けが等の治療や相談も並行して行っています。

2 動物ふれあい教室の実践例

今までに行われたふれあい教室は、主に低学年（1・2年生）と飼育委員会です。参考のため以下に実際に行われた1年生用のタイムテーブルを示します。

伊勢崎市 小学校 1 年生動物ふれあい教室

タイムテーブル

- | | | | |
|---------|----------|---------|------------------|
| 1 集合時間 | 11月10（木） | 午後1時50分 | 正門駐車場
（体育館使用） |
| 2 対象クラス | 1年生 | 2クラス | |

3 時間配分

1 : 5 5 説明、役割分担

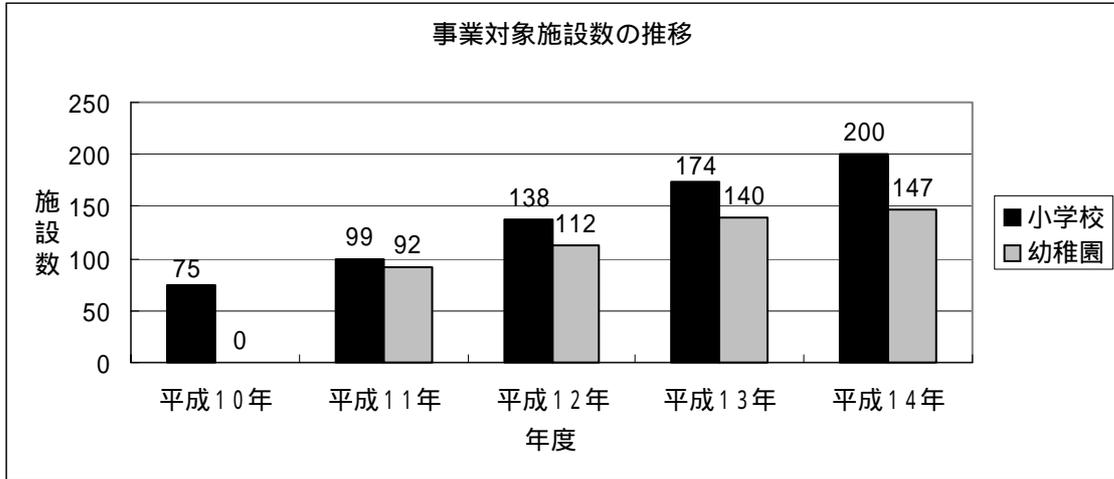
2 : 0 0	授業内容の説明、注意事項、班分け	担当教諭
2 : 0 5	心臓の位置（人間との比較）、聴診器等の説明 ウサギは怖がりであることの説明と 座って抱くことを奨める（骨折しやすい）	担当獣医師 小 木
2 : 1 5	1 : 4 班に分かれる 2 : 児童の心音聴取 3 : 児童とウサギの心臓の位置確認 4 : 聴診器によりウサギの心音聴取 5 : ウサギの抱き方 * 必ず座って抱く * 恐がる児童にはバスタオルを用いる	地区獣医師会員 村 宇 木 林 小 木
2 : 4 0	質疑応答	小 木
2 : 4 5	まとめ	担当教諭
準備	聴診器・心音計・バスタオル・	小 木

2年生の場合は歯の構造やウサギの食べ物・耳の血管・指の数など、少し体の構造の観察を同時に行うようにしています。

ここで、ふれあい教室実施後、われわれ獣医師のもとに送られてきた児童の感想文（絵日記）の一例を紹介いたします。「これはうさぎをさわっているところです。うさぎのせなかがすごくあったかいです。うさぎのほっぺたのほうきずがあってかなしそうです。うさぎのせんせいがいっぱいきておもしろかったです。うさぎのせなかがすごくきもちよかったです。うさぎのつめがすごくつよそうです。めがかわいいです。」このような「かわいい」「あったかい」「ふわふわしている」という感想だけでなく、ウサギの歯の鋭さに少し恐怖を持つ児童もいると思います。大人の考えを押し付けるのではなく、実際に動物に触れ見て聞いて嗅いで、そのかわいさ・怖さ・不思議さ・生命の躍動感を自由に感じ取ってもらうことを希望しています。

3 事業実績について

対象施設数の推移



このように事業開始以来、毎年実施施設数は増加してきています。平成16年度の対象施設数は小学校：241校・幼稚園保育園：158園、17年度は小学校：247校幼稚園保育園：168園となっています。

活動実績内容

平成16年度の実施学校数・ふれあい教室数・訪問指導(飼育管理指導)数・事業打ち合わせ数・診療件数・相談件数・派遣獣医師数・ふれあい教室対象児童数(延べ数)は以下の表のとおりです。

＜ふれあい教室＞活動内容 小学校 総計								
	学校数	教室	訪門	打合	診療	相談	派遣人数	児童数
合計	450	278	80	48	110	6	1296	10871

＜ふれあい教室＞活動内容 幼稚園 総計								
	園数	教室	訪門	打合	診療	相談	派遣人数	児童数
合計	133	70	29	27	38	1	232	2477

動物ふれあい事業活動の一環として、高病原性鳥インフルエンザ発生時には、ほぼ全対象施設に獣医師を派遣し、飼育鳥類の健康調査を実施し安全性の確認をしました。

4 今後の展開

これまで小学校からの依頼は、低学年（1・2年生）と飼育委員会のふれあい教室主でありましたが、将来的には低学年で動物に触れ、中学年で体の仕組みの違いを学習し、高学年で『命』の学習をするというように、段階を踏みながら各学年に応じた内容で、授業と関連付けたふれあい教室を実施できたらと考えています。例えば、飼育委員会の児童が低学年のふれあい教室において獣医師サポート隊と一緒に活動できたら、とても充実した委員会活動になるのではないかと考えています。

この事業の動物との触れ合いを通して、思いやり・豊かな心をもった児童が育ち21世紀、将来明るい豊かな町で、生き生きとした自然環境の中で暮らししていけるように、また『地球の仲間たち』の良きリーダーとして成長する事を、地域の人々や関係者とともに見守っていきたいと思います。

今後も獣医師会としてまた一地域住民として、この動物ふれあい事業を通じ、群馬県の教育に微力ながら協力していきたいと考えております。